



GOSAT HDF Viewer

FTS L1 データ表示の手引き

Ver. 0.1.2.0

2010年2月



■改訂履歴

Ver.	日付	内容	該当箇所
0.1.2.0	2010/02	初版	-



----- 目次 -----

1. はじめに	1
2. FTS L1A,L1B データの文字列	2
3. FTS L1 モードの指定	3
4. 多次元データの読み込み.....	5



1. はじめに

本書は、「**GOSAT HDF Viewer**」を用いて、温室効果ガス観測技術衛星「いぶき(GOSAT)」の FTS L1A,L1B データのメタデータを表示するまでの手順を説明した簡易手引書です。

GOSAT FTS L1A,L1B データでは、文字列を格納するために 1 バイト整数の配列を利用しています。このタイプのデータは、通常の **HDF Viewer** では文字列として表示されません。

GOSAT HDF Viewer では、FTS L1 モードを指定することにより、これらのデータを文字列として表示することが可能です。

以下に、その表意方法を説明します。

本書中の画像は独立行政法人国立環境研究所から提供されたデータを表示したものです。

(C) Research Institute of Systems Planning, Inc.
Product L1B+ and L1B : Processed by NIES
Observed raw data : Belongs to JAXA / NIES / MOE

2. FTS L1A,L1B データの文字列

GOSAT FTS L1A,L1B データは、メタデータなどの文字列データを格納する方法として、1バイト整数の配列を用いています。

これらのデータは、通常モードで表示を行うと以下のように配列として表示されます。

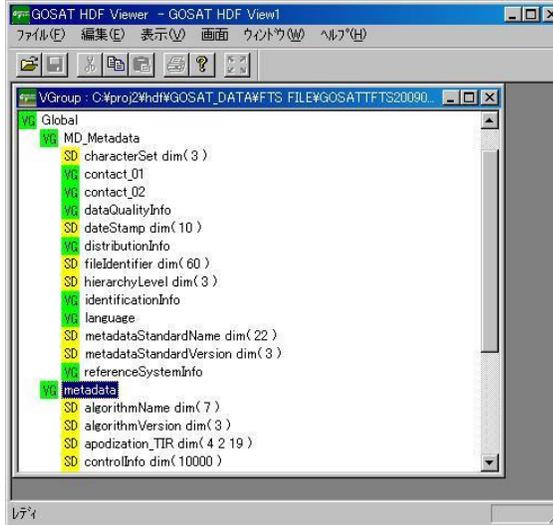


図 2-1 FTS L1B 通常表示のグループ画面

また、表形式で表示した場合、文字列のアスキーコードが1バイト整数の配列の形で表示されます。

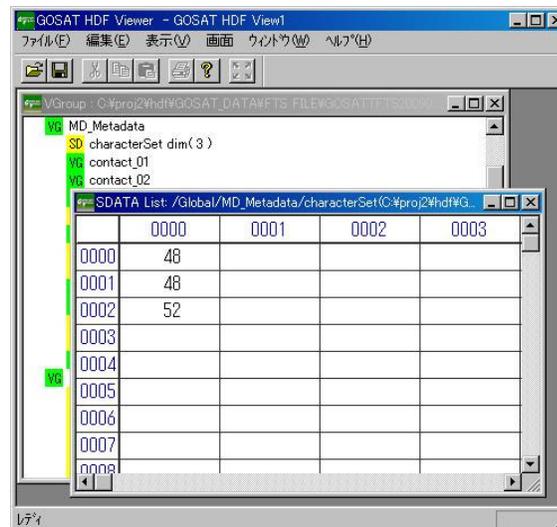


図 2-2 FTS L1B 通常表示の表形式画面

3. FTS L1 モードの指定

「**GOSAT HDF Viewer**」では、1バイト整数配列を文字列として表示する機能があります。メニュー-[表示]-[整数配列を文字列として表示 (FTS L1 用)]を指定し、チェックがついた状態にしてください。



図 3-1 FTS L1 モードの指定

FTS L1 モードでは、1バイト整数の配列を文字列として表示します。グループ画面では、1次元の配列は、そのまま文字列として表示されます。

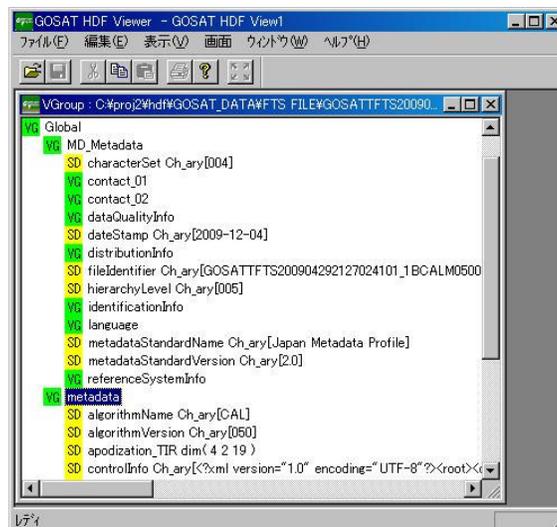


図 3-2 FTS L1 モードでのグループ画面

FTS L1 モードの状態では表形式の表示を行うと、1 バイト整数の配列を文字列として表示します。

FTS L1 モードでは、「総桁数」の初期値としてに文字数が自動的に設定されます。

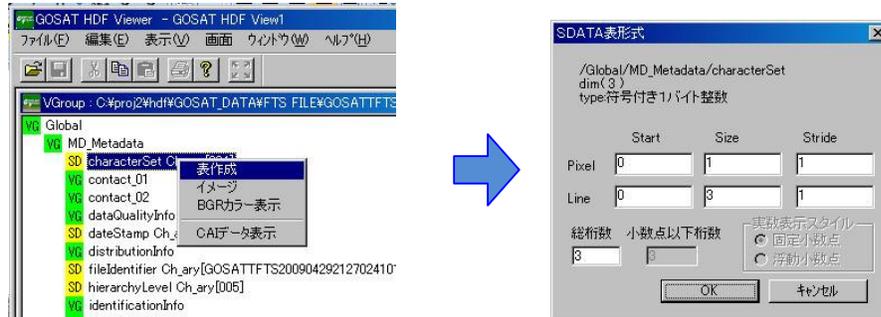


図 3-3 表作成の指定

※各パラメータの意味は以下の通り

- Pixel : 2次元データの X 方向
- Line : 2次元データの Y 方向
- Start : 読み込み開始位置を指定。(0 からカウント)
- Size : 読み込む大きさを指定。
- Stride : 間引きを行う場合に指定。1 では間引きなし、2 では2個に1個のデータを読み込む。
- 総桁数 : データを表示する場合の最小文字数を指定する。
- 小数点以下桁数 : 実数のデータを表示する場合、小数点以下表示桁数を指定する。
- 実数表示スタイル : 実数を表示場合、固定小数点形式、浮動小数点形式を指定する。
浮動小数点形式を指定した場合、総桁数は自動計算となる。

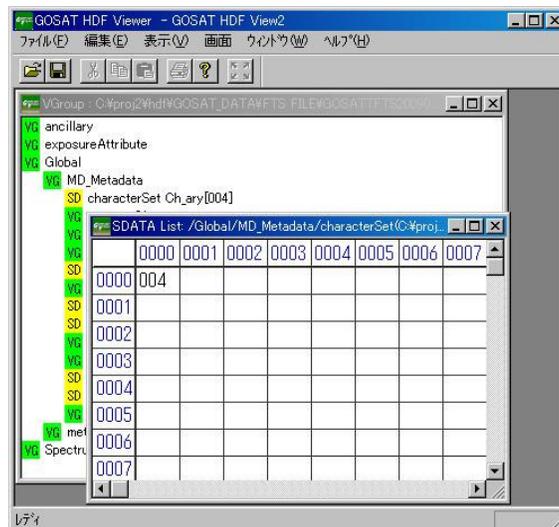


図 3-4 FTSL1 モードの表形式画面

4. 多次元データの読み込み

GOSAT HDF Viewer では、2次元までのデータを表示することが可能です。

ここでは2次元より多いデータの表形式での表示方法について説明します。

2次元より大きい次元のデータを表形式で表示しようとする、次元指定ダイアログが表示されます。

ここでは、2次元以外に固定にする次元とその値を指定します。

以下の例では、4次元データである FTS SWIR のスペクトルデータを表示しようとしています。ここでは、観測点を20番目、偏波を P、と固定して、波数と実数/虚数の2次元表示を指定しています。

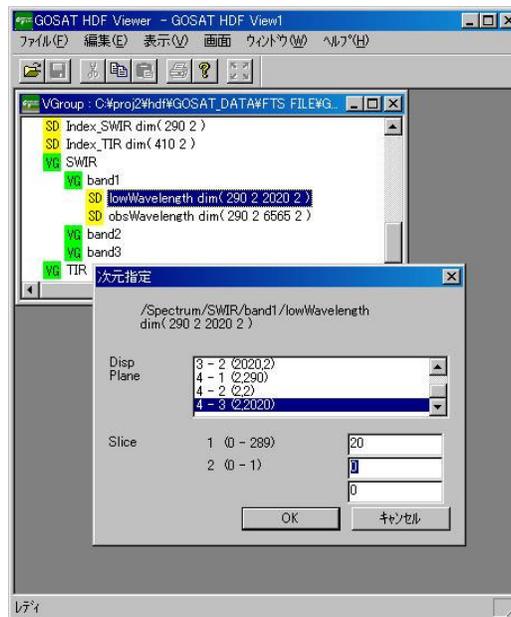


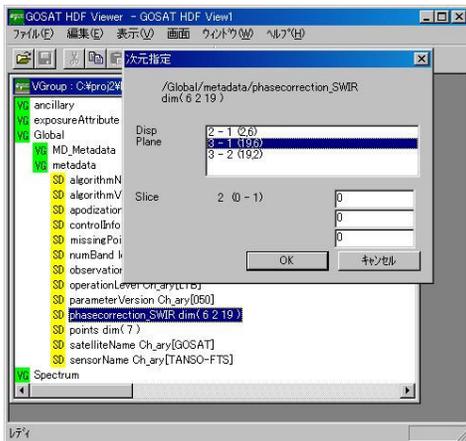
図 4-1 次元指定ダイアログ

表示形式を指定すると、以下のように表形式表示ができます。
 ※ここでは、小数点以下桁数を 8 桁で表示している点に注意してください。

	0000	0001	0002	0003	0004
0000	0.00011623	0.00000000			
0001	-0.00007835	0.00009729			
0002	0.00001459	0.00006210			
0003	0.00000298	0.00002553			
0004	0.00000005	0.00001923			
0005	0.00000398	0.00000637			
0006	0.00000632	0.00001735			
0007	0.00000550	0.00002728			
0008	-0.00000816	0.00002689			
0009	-0.00000523	0.00000745			
0010	0.00001236	0.00001380			

図 4-2 多次元データの表形式表示

FTS L1 モードでの多次元データの表示は、以下のようになります。
 メタデータの SWIR スペクトル位相補正情報にかかる窓関数情報を表示しています。
 2次元目を「全体データに適応した窓関数」に固定し、全 band、全偏波の一覧を指定しています。



	0000	0001
0000	GAU,76545,0.002000	
0001	GAU,76545,0.002000	
0002	GAU,76545,0.002000	
0003	GAU,76545,0.002000	
0004	GAU,76545,0.002000	
0005	GAU,76545,0.002000	



GOSAT HDF Viewer お問い合わせ先

<http://remote-sensing.isp.jp/GOSAT-HDF/>

E-Mail: GOSAT-HDF@ml.isp.co.jp

©2009 Research Institute of Systems Planning, Inc./ ISP

株式会社システム計画研究所／ISP

本社 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 2-9 カサヤビル

<http://www.isp.co.jp/>